学会レポート

私は２０１１年９月２１日（水）～２４日（土）に開催されました第８４回生化学会大会に参加しました。本大会ではポスター発表を行い、多くの方と議論を交わすことができました。中でも本大学の卒業生であり、現在は岩手医科大で活躍している関谷さんと、私自身の研究の方向性や意義について深く議論できたことは、今後の私の研究においてとても有益なものとなりました。

更には、数多くの著名な先生方のシンポジウムを拝聴できたことも、大変有意義であり、勉強になりました。中でも、神戸大学の井垣達吏先生や慈恵医大の嘉糠洋陸先生の発表は、内容のまとまりやデータもさることながら、聴衆を惹き付ける話し方が大変印象的であり、学ぶべき点が多くありました。

今回の学会参加を通して、研究に対する熱意が増幅されたと同時に、自身に不足している点を先生方から学ぶことができ、今後の私自身の研究生活にとってプラスになる時間を過ごすことができました。このような機会を与えて頂いたことに深く感謝致します。

熊田　幸平

2011 年 9 月 21～24 日、京都で開催された第 84 回日本生化学大会に参加させて頂きました。

自身の発表では、同様に自然免疫の研究をされている方々と多くのディスカッションをさせて頂きました。その中で、普段研究室内にいる中では出てこない貴重な助言を多く頂き、多くの問題点が浮き彫りになりました。特に、自身の扱う分子の自然免疫への寄与度が不明確であることや、データをクリアにするのに異なる手法を用いたアプローチが不足であること等、詰めの甘さが露呈されました。今後、頂いた助言を有意なものにするためにも、テーマについて深く考え実験に取り組みたいと思います。アドバイスを頂いた方々には深く感謝いたします。

セッションでは、大変興味深い発表が数多くありました。自然免疫分野の世界的第一人者である審良先生の講演や、嘉糠先生の p38 感染ストレストレランス機構、猪原先生の Nod1 の研究の最前線、吉岡先生の植物免疫における MAPK の役割等、世界最先端の研究内容を肌で感じることができました。ポスターに

おいても dapaf1 とストレス応答、Senju の自然免疫制御、CaBP1 によるアポトーシス細胞の取り込み等、参考にさせて頂く発表が多くありました。

また、自身のテーマとは異なる分野の発表も参考になりました。アポトーシス細胞の貪食やその認識受容体 Mincle、炎症における IL-33 の機能、HGFβ-chain のクッパー細胞に与える影響等、挙げだしたらキリがないほど多く、自身の視野を広げる良いきっかけとなりました。

今回、このような機会を与えて下さった多くの方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

M1　鈴木 弘章